

7.3 ウェブページ

本年度の WEB 運営は、初年度に導入した CMS(Content Management System) 機能利用をさらに深め、 ①HP 運営体制とコンテンツ基盤構築 ②HP レイアウトの改善 ③HP コンテンツの充実化に努めた。

① HP 運営体制とコンテンツ基盤構築

更新作業が効率よくすすめられるよう「HP 運営体制」と「コンテンツ基盤構築」の枠組みを整えた。

HP 運営体制

広報・成果発信部会小部会では「HP 運営管理」と「HP 原稿管理」にわけ運営体制を分割し担当を明確にした。また、各部局には、独自で HP 更新がすすめられるよう、アカウントを作成・配布した。更新方法については説明会を開催した。サーバ管理に関しては、情報整備基盤部会より支援を受けた。

■HP 運営管理（広報・成果発信部会）

- 主に CMS システム保守・開発、HP コンテンツ構築・運用管理、サーバ管理、技術的な HP 更新を行う

■HP 原稿管理（広報・成果発信部会）

- 主に HP 用原稿依頼・英語コンテンツの翻訳・HP 更新を行う

■HP 原稿執筆(各部会：事務局部会・若手研究者養成部会、大学院教育部会、国際シンポジウム、 図書小部会)

- 主に原稿執筆と独自コンテンツの簡易更新を行う

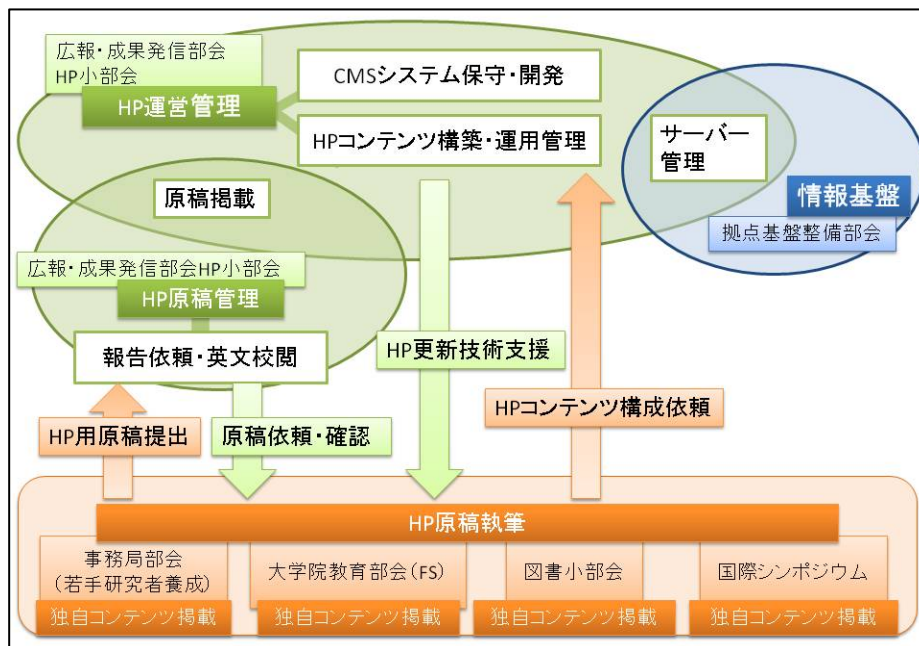


図 1：ウェブサイトに関わる運営体制図

コンテンツ基盤構築

多様な情報が集まる大型プログラムウェブサイトでは、運営初期にコンテンツ構成の枠組となるコンテンツ基盤構築を設定する必要がある。

本サイトでは CMS 機能の「話題」わけを利用し、コンテンツ情報の整理につとめている。

現在は72個の「話題」を中心に HP 掲載情報の入力をするすめた。

《編集》 ワークショップ 編集	プログラムメンバー 編集	国際集会・国際シンポジウムなど 編集	G-COEバライム研究会 編集
公募・お知らせ 編集	関連する学会・研究会など 編集	イニシアティブ1 編集	イニシアティブ2 編集
イニシアティブ3 編集	イニシアティブ4 編集	若手養成・研究部会 研究会 編集	ニューズレター 編集
教育/フィールド・ステーション 編集	その他の研究会 編集	査読付論文 編集	国際会議 編集
国際会議・学会発表 編集	その他の論文 編集	ナイロビFS 編集	メンバー・教員 編集
メンバー・研究員 編集	メンバー・次世代 編集	メンバー・大学院生 編集	図書館 編集

図2：「話題」編集画面

② HP レイアウトの改善

コンテンツ増加に伴い、文字のみの情報から、閲覧しやすいレイアウトに改善した。

本拠点のめざすもの

- ・リーダーあいさつ
- ・わらい
- ・背景
- ・構想
- ・カバーする分野
- ・独自性
- ・期待される成果

本拠点のめざすもの

リーダーあいさつ わらい 背景 構想 カバーする分野 独自性 期待される成果

お知らせ >>>一覧

[2009-04-20] 連携国際集会2008年「Forest Policies for a Sustainable Humanoosphere(2009/02/17-18)報告掲載

[2009-04-20] 国際シンポジウム「グローバル・デバチング」の掲載

[2009-04-10] 連携国際集会2008年「Islam for Social Justice and Sustainability: New Perspective on Islamism and Pluralism in Indonesia(2008/09/16-17)報告掲載

[2009-04-07] 連携国際集会2008年「Pastoral Societies in Africa(2008/09/04)報告掲載

[2009-04-07] ニュースレター 第3号(発行:2009年2月)

[2009-03-04] 国際シンポジウム「情報・プログラム・アップデート更新」"Biosphere as a Global Force of Change"(2009/03/09-11)

[2009-02-06] 連携国際集会2008年「GIS-IDEAS 2008, PISC, ECAI Joint International Symposium(2008/12/04-06)報告掲載

[2008-12-05] 連携国際集会2008年「FORTROP II Forestry Change in a Changing World(2008/11/17-20)報告掲載

[2008-11-17] 連携国際集会2008年「International Conference on "Multiple Paths of Economic Development in Global History" (2008/11/08-09)報告掲載

[2008-09-17] ニュースレター第2号(発行:2008年7月)掲載

掲載

- ・プログラムの概要
- ・運営体制
- ・自己点検評価報告書
- ・ニュースレター

連携国際集会リスト

2008年/2007年

ニュースレター

>>> No.3 (2009/02)

>>> News Letter

図3：本拠点をめざすもの

大学院教育 (フィールド・ステーション)

- ・大学院教育部会
 - 大学院研究費(平成19年度後期開講)
 - 「持続型生存基盤研究の方法」
- ・フィールド・ステーション
 - アジア・インドネシア(マカッサル)FS、カンボジアFS、ミャンマーFS、ラオスFS、マレーシア
 - 南アジア・西アジア
 - アフリカ:エチオピアFS、カメルーンFS、ナイロビFS(ケニア)、ザンビアFS、タンザニアFS
- ・派遣者リスト
 - 2007年

大学院教育 (フィールド・ステーション)

フィールド・ステーション(FS) / 拠点・大型実験・観測基地

地図 航空写真 地図・写真

Google

地図データ ©2009 Europe Technologies

大学院教育部会

「新着公開」
「グローバル・地域研究報告」>>>

「大学院研究費」
平成20年度後期開講:「持続型生存基盤研究の方法」

「月報メールマガジン」
「アジア・アフリカ地域研究情報マガジン」【発行部数 1046】
登録>>>

派遣者報告リスト

「メディアギャラリー」

- ・レポート写真
- ・国際シンポジウム
- ・FS/拠点写真

FS関連セミナー情報

[2008-12-09]
「第2回アジア・地域研究報告会(2008/12/9)」

[2008-11-14]
「アジア・アフリカ地域研究情報マガジン」【発行部数 1046】

[2009-01-30]
「第3回アジア・地域研究報告会(2009/01/30)」

図4：大学院教育



図 5：若手研究者養成

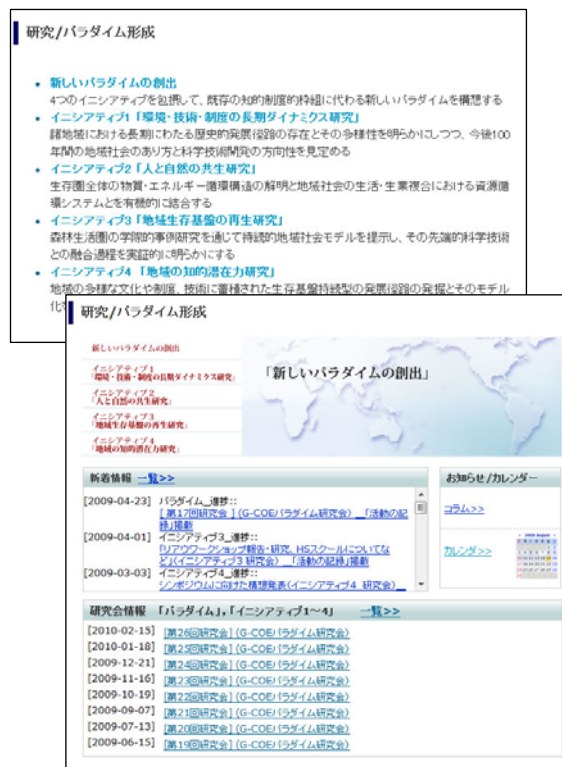


図 6：研究/パラダイム形成



図 7：シンポジウム・セミナー案内

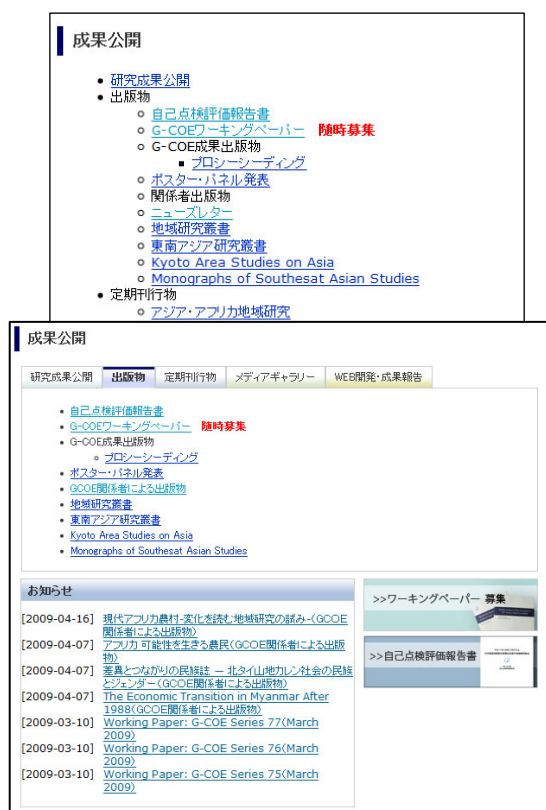


図 8：成果公開

③ HP コンテンツの充実化

研究活動の報告

本プログラムに関する活動報告は、HP に和文・英文両方の掲載がされるようすすめた。

【報告の種類】

- ・次世代イニシアティブ成果報告・大学院派遣報告
- ・研究会活動報告 (G-COE パラダイム研究会・イニシアティブ 1～4、若手養成・研究部会、国際集会・国際シンポジウム報告)

➤現在までの報告掲載数 合計：188 件（和文：96 件／英文：92 件）

名称	開催時期	開催場所	参加の主要組織	写真
CSEAS and NIOD Joint International Workshop on "Chinese Identities and Inter-Ethnic Coexistence and Cooperation in Southeast Asia"	2008/07/04-05	CSEAS, Kyoto University (京都大学東アジア研究)	・Netherlands Institute for War Documentation (NIOD) (オランダ戦争資料研究所)	
Re-conceptualization of Wildlife Conservation -Toward Resonant Actions for Conservation-	2008/08/07	Kenya Embassy of Japan (multiple purpose hall) (在ケニア日本大使館・多目的ホール)	・Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) Nairobi Research Station ・Kenya Wildlife Services (KWS) (主賓：JSPS・ICD 研究連絡センター、共催：ケニア野生動物公社)	
Workshop on Ecosystem function and conservation of tropical forests (動植物の生態機能と保全に関するワークショップ)	2008/08/12-13	National Institute for Environmental Studies The Center for Global Environmental Research (CGER)	・National Institute for Environmental Studies ・Forest and Forest Products Research Institute ・Hiroshima University (国立環境研究所、環境研究センター、森林総合研究所、広島大学)	
Pastoral Societies in Africa: New Possibilities for Sustainable Development through the Interaction of Scientific Researchers and Development Workers	2008/09/04	University of Nairobi (ナイロビ大学)	・Institute of African Studies, University of Nairobi ・Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) Nairobi Research Station ・Center for African Area Studies, Kyoto University (ナイロビ大学アフリカ研究所、日本学術振興会ナイロビ研究連絡センター、京都大学アフリカ地域研究部会)	

図 9：連携国際集会リスト

大学院アジア・アフリカ地域研究専攻 (ASAFAS)	
・加川真美 (ASAFAS 東南アジア地域研究専攻)	
研究テーマ：フィリピン農村部における食のグローバル化の浸透と健康問題	
渡航先：フィリピン	
・片山祐美子 (ASAFAS アフリカ地域研究専攻)	
研究テーマ：ガンベラ川中流域におけるイネ品種の短期的動態	
渡航先：ガンベラ	
・津沢麻美 (ASAFAS アフリカ地域研究専攻)	
研究テーマ：シエラレオネにおける人々とデング熱の関わりとその保全	
渡航先：シエラレオネ	
・佐藤慶子 (ASAFAS 東南アジア地域研究専攻)	
研究テーマ：南インド半乾燥地帯灌漑農村における自治組織の機能の調査	
渡航先：インド	
・佐藤宏樹 (ASAFAS アフリカ地域研究専攻)	
研究テーマ：マダガスカル南部、川辺乾燥地における種子散布者として重要なキツネザル類の生態調査	
渡航先：マダガスカル	
・JAFAR SURYOMENGKOL (ASAFAS 東南アジア地域研究専攻)	
研究テーマ：Labour in Indonesia during the revolution (1945-1950)	
渡航先：インドネシア	
・鈴木道 (ASAFAS 東南アジア地域研究専攻)	
研究テーマ：インドネシア東ガリマンタン州における木材資源の生産と流通	
一住民による小規模な生産・流通活動に着目して	
渡航先：インドネシア	

図 10：大学院派遣者リスト

大学院教育部会フィールド・ステーション (FS)、拠点 HP の設置

フィールド・ステーション HP 12 箇所、拠点 HP : 8 カ所を設置した。

また FS には、独自で HP 更新作業がすすめられるようアカウントを配布中である。



図 11 : FSHP (エチオピア FS)



図 12 : FSHP (ラオス FS)



図 13 : 拠点 HP

システム構築と開発

・社会貢献：GoogleMapAPI 導入と CMS プラグイン開発

本サイトのシステム充実のため、2008 年 3 月～GoogleMapAPI 導入をめざした、CMS 業者との開発をすすめた。

この開発は CMS システム内で使用される GoogleMapAPI 関数を、地点情報として容易に表示可能にするものである。

さらに、一般利用を考慮し、プラグイン化をすすめた。このプラグインは、開発システムのサイト上に掲載されており、ダウンロード利用ができる。

こういった開発は、社会貢献の一つとしてあげられる。

また、このプラグインには、本プログラムのコピーライトの明記がされている。



図 14：開発について掲載された
CNET Japan 2008/05/16

```
<?php
// Reminder: always indent with 4 spaces (no tabs).
// +-----+
// | function_tkgmaps.php |
// +-----+
// | Copyright (C) 2002 by the following authors: |
// |
// | 2008.05.14 v0.9 customized by G-COE, CSEAS. Addition of GoogleMapsEditor API Auto Tags
// | Authors: Kinoshita
// | Authors: Hiroron
// | Director: IVY WE CO.,LTD. Komma
// +-----+
```

図 15：開発依頼した CMS プラグイン内のコピーライト

メディアギャラリー

プログラムメンバーが調査で撮影してきた写真やシンポジウム写真、ポスター、出版物などの画像をアーカイブしている。

現在で 739 枚の画像が掲載されている。

今後は地点情報入力ソースとしても活用できるようすすめていく予定である。



図 16：メディアギャラリー画面

メールマガジン

アジア・アフリカ地域研究研究科（ASAFAS）よりメールマガジン配信がすすめられている「アジア・アフリカ地域研究情報マガジン」について、2008 年 9 月から発行協力を開始した。

- メールマガジンタイトル：アジア・アフリカ地域研究情報マガジン
- メールマガジン URL：<http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kaikaku/index.html>
- 発行周期：月刊
- 発行部数：981 部

メールマガジンの内容には、ASAFAS 活動情報の他、GCOEHP にて掲載された報告紹介や研究活動などが掲載されている。

④ ウェブサイト解析と今後の課題

ウェブサイトのページ数

解析期間：2007 年 11 月 30 日～2008 年 3 月 31 日

日本語ページ数：952 ページ 英語ページ：460 ページ

合計：1412 ページ

アクセス数(日本語・英語ページ)

[解析期間]

日本語ページ：2007 年 11 月 30 日～2009 年 3 月 31 日

英語ページ：2008 年 1 月 28 日～2009 年 3 月 31 日

(※解析ツール：Google Analytics (<http://www.google.com/analytics/ja-JP/index.html>))

	日本語		英語	
	訪問者数	ページ閲覧数	訪問者数	ページ閲覧数
2007 年度 (日:4ヶ月/英:2ヶ月)	13914	102031	3547	7941
2008 年度	27859	247900	10596	67007
月平均閲覧	2610	21870	1010	5353

表 1：ウェブサイト訪問者数とページ閲覧数

まとめ

本プログラムウェブサイトが公開されてから約 2 年半、ほぼ毎日のペースで更新作業がすすめられてきた。これらの公開されたページ数は、現在で日・英ページ合わせて 1412 ページである。

このページ数の増加は、①項で述べた「HP 運営体制」で配置された役割をもとに、各担当者がコンテンツ作成作業を日々取り組んできた成果であると述べられる。

また、ウェブサイト訪問者数については、一月あたり日本語ページは 2600 件を超え、英語ページは、1000 件に上る。これは SEO 対策によって得られた数字でもある。

今後もひきつづき、閲覧・利用されるウェブサイトをめざし取り組んでいきたい。

来年度からは、サーバ利用方針が大きく前進する予定である。CMS 利用とその開発をより深め、ウェブサイト充実を図っていきたい。